

# I 調査結果の概要

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成19年の素材の需要量（＝供給量）は2,878万9千m<sup>3</sup>で、前年に比べ65万2千m<sup>3</sup>（2.2%）減少した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は1,944万8千m<sup>3</sup>で、住宅着工戸数の減少等により輸入が減少したことから前年に比べ89万4千m<sup>3</sup>（4.4%）減少した。

一方、「木材チップ用」は411万4千m<sup>3</sup>で、素材（原木）以外の原料である工場残材や解体材・廃材が減少しているなかで素材（原木）からの生産量が増加したことから前年に比べ19万8千m<sup>3</sup>（5.1%）増加した。また、「合板用」は522万7千m<sup>3</sup>で4万4千m<sup>3</sup>（0.8%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が67.6%、「合板用」が18.2%、「木材チップ用」が14.3%となった。（表1、図1）

表1 需要部門別素材需要量

単位：千m <sup>3</sup>				
区分	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成19年	28 789	19 448	5 227	4 114
対前年比（%）	97.8	95.6	100.8	105.1
構成比（%）	100.0	67.6	18.2	14.3

## (2) 素材の供給

素材の供給量（＝需要量）は、国産材が1,765万m<sup>3</sup>で前年に比べ104万1千m<sup>3</sup>（6.3%）増加した。これは、外材の供給量が減少しているなかで、施策の推進等により国産材の利用が増加したことによる。

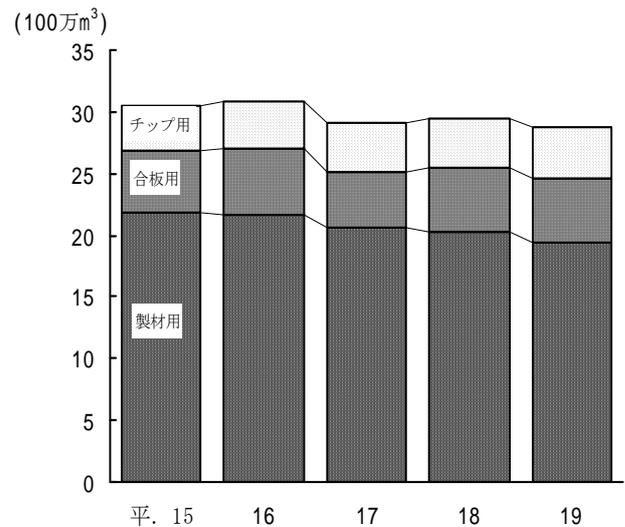
また、外材は1,113万9千m<sup>3</sup>で米材、北洋材等が減少したことから前年に比べ169万3千m<sup>3</sup>（13.2%）減少した。これは、主に原油高により輸送コストが高騰したこと、諸外国において需要が増加し入手が困難になったこと、北洋材については丸太の輸出税の引き上げが行われたこと等による。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は61.3%となり、前年を4.9ポイント上回った。（表2及び3、図2）

表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千m <sup>3</sup>			
区分	計	国産材	外材
平成19年	28 789	17 650	11 139
対前年比（%）	97.8	106.3	86.8
構成比（%）	100.0	61.3	38.7

図1 素材需要量の推移



(参考) 関連統計表

区分	単位 { 着工戸数:千戸 入荷量:千t			
	1) 新設住宅着工戸数	木造住宅	2) 紙・板紙生産量	2) 製紙パルプ生産量
平成19年	1 061	505	31 266	10 807
対前年比（%）	82.2	90.3	100.5	100.1

資料：1)国土交通省『建築着工統計』

2)経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

図2 材種別素材供給量の推移

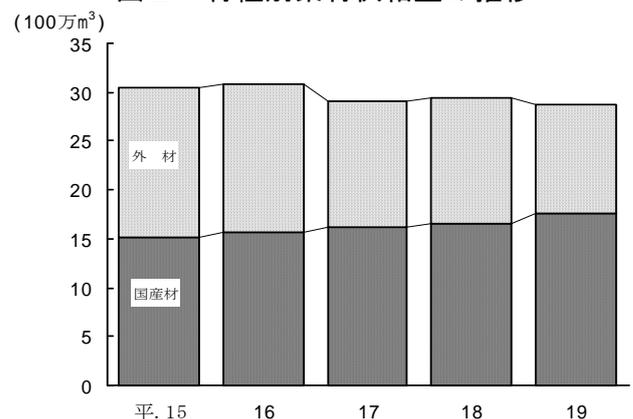


表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージランド材	その他	
平成19年												
計	28 789	17 650	15 162	2 488	11 139	1 008	768	4 613	4 438	845	235	
製材用	19 448	11 981	11 782	199	7 467	162	20	4 562	1 715	809	219	
合板用	5 227	1 632	1 619	13	3 595	846	748	48	2 655	35	11	
木材チップ用	4 114	4 037	1 761	2 276	77	0	0	3	68	1	5	
対前年比(%)												
計	97.8	106.3	108.2	96.0	86.8	82.7	91.3	87.5	87.1	88.6	81.6	
製材用	95.6	102.9	104.1	60.5	85.9	81.0	71.4	87.0	81.1	93.0	81.7	
合板用	100.8	142.7	143.8	72.2	89.0	83.1	92.1	184.6	91.6	42.2	73.3	
木材チップ用	105.1	105.7	111.8	101.4	80.2	...	...	75.0	80.0	100.0	100.0	
構成比(%)												
計	100.0	61.3	52.7	8.6	38.7	3.5	2.7	16.0	15.4	2.9	0.8	
製材用	100.0	61.6	60.6	1.0	38.4	0.8	0.1	23.5	8.8	4.2	1.1	
合板用	100.0	31.2	31.0	0.2	68.8	16.2	14.3	0.9	50.8	0.7	0.2	
木材チップ用	100.0	98.1	42.8	55.3	1.9	0.0	0.0	0.1	1.7	0.0	0.1	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,516万2千m<sup>3</sup>で、主に「合板用」及び「製材用」が増加したことから、114万5千m<sup>3</sup>（8.2%）増加した。

これを樹種別にみると、「あかまつ・くろまつ」及び「ひのき」は前年に比べそれぞれ1万7千m<sup>3</sup>（2.1%）、5千m<sup>3</sup>（0.3%）減少したものの、主に合板用の生産量が増加したことから「すぎ」、「からまつ」及び「えぞまつ・とどまつ」は前年に比べそれぞれ78万9千m<sup>3</sup>（9.8%）、33万6千m<sup>3</sup>（17.3%）、4千m<sup>3</sup>（0.4%）増加した。

また、広葉樹は248万8千m<sup>3</sup>で、主に「製材用」が減少したことから、前年に比べ10万4千m<sup>3</sup>（4.0%）減少した。

（表3及び4、図3）

図3 樹種別素材生産量の推移

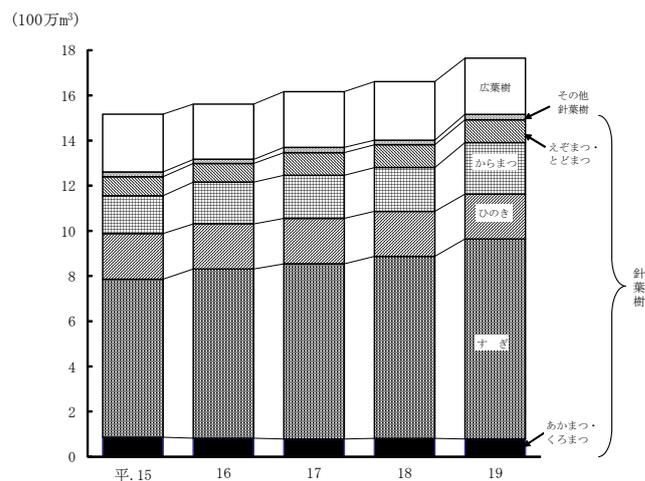


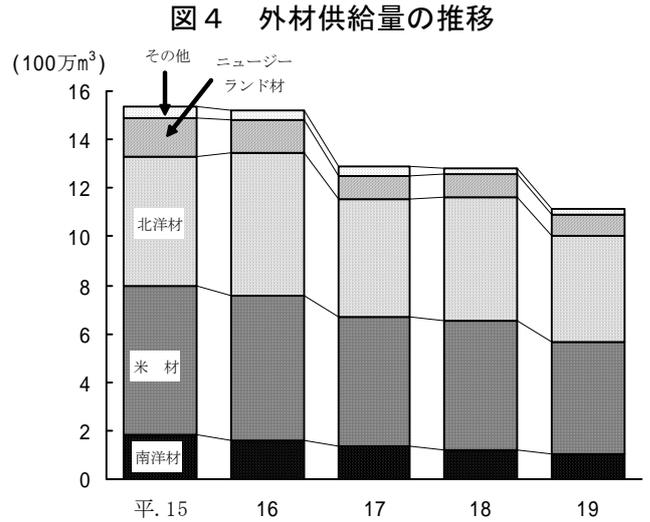
表4 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成19年									
計	17 650	15 162	794	8 848	1 986	2 280	1 012	242	2 488
製材用	11 981	11 782	263	7 175	1 909	1 501	831	103	199
合板用	1 632	1 619	130	1 061	6	386	20	16	13
木材チップ用	4 037	1 761	401	612	71	393	161	123	2 276
対前年比(%)									
計	106.3	108.2	97.9	109.8	99.7	117.3	100.4	118.6	96.0
製材用	102.9	104.1	90.7	106.2	99.0	107.8	97.6	102.0	60.5
合板用	142.7	143.8	132.7	132.1	...	177.9	400.0	533.3	72.2
木材チップ用	105.7	111.8	94.8	121.7	114.5	117.3	105.9	123.0	101.4
構成比(%)									
計	100.0	85.9	4.5	50.1	11.3	12.9	5.7	1.4	14.1
製材用	100.0	98.3	2.2	59.9	15.9	12.5	6.9	0.9	1.7
合板用	100.0	99.2	8.0	65.0	0.4	23.7	1.2	1.0	0.8
木材チップ用	100.0	43.6	9.9	15.2	1.8	9.7	4.0	3.0	56.4

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、米材は461万3千 $m^3$ 、北洋材は443万8千 $m^3$ 、南洋材は100万8千 $m^3$ 、ニュージーランド材は84万5千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ66万1千 $m^3$  (12.5%)、65万9千 $m^3$  (12.9%)、21万1千 $m^3$  (17.3%)、10万9千 $m^3$  (11.4%) 減少した。(表3、図4)



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成19年12月31日現在の製材工場数は7,905工場で、前年に比べ577工場 (6.8%) 減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「37.5～75.0未満」、「22.5～37.5未満」及び「75.0～150.0未満」の階層においてそれぞれ250工場 (8.0%)、154工場 (8.5%)、89工場 (6.1%) 減少した。

製材用動力の総出力数は79万2,959.3kWで、前年に比べ2万6,918.3kW (3.3%) 減少したものの、1工場当たりの出力数は100.3kWで、前年に比べ3.6kW (3.7%) 増加した。(表5)

表5 製材工場数、製材用動力の出力数 (平成19年12月31日現在)

出力階層		平成19年	対前年比	構成比
工場数	計	7 905	93.2	100.0
	7.5～22.5kW未満	823	95.5	10.4
	22.5～37.5	1 860	91.5	21.0
	37.5～75.0	2 861	92.0	36.2
	75.0～150.0	1 372	93.9	17.4
	150.0～300.0	706	93.6	8.9
	300.0kW以上	483	100.6	6.1
総出力数		792 959.3	96.7	-
1工場当たり出力数		100.3	103.7	-

イ 従業員数

平成19年12月31日現在で操業している工場の従業者数は4万2,127人で、前年に比べ3,262人 (7.2%) 減少し、1工場当たりの従業者数は5.4人で、前年と同数となった。(表6)

表6 従業者数規模別製材工場数及び従業者数 (12月操業)

年次	従業者数規模別製材工場数 (12月操業)							従業者数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上	(12月31日現在)
平成19年	7 856	5 004	1 859	725	163	70	35	42 127
対前年比 (%)	93.3	95.3	88.0	92.8	99.4	93.3	94.6	92.8
構成比 (%)	100.0	63.7	23.7	9.2	2.1	0.9	0.4	1) 5.4

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材消費量

平成19年の製材用素材消費量は1,921万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ109万4千m<sup>3</sup>（5.4%）減少した。

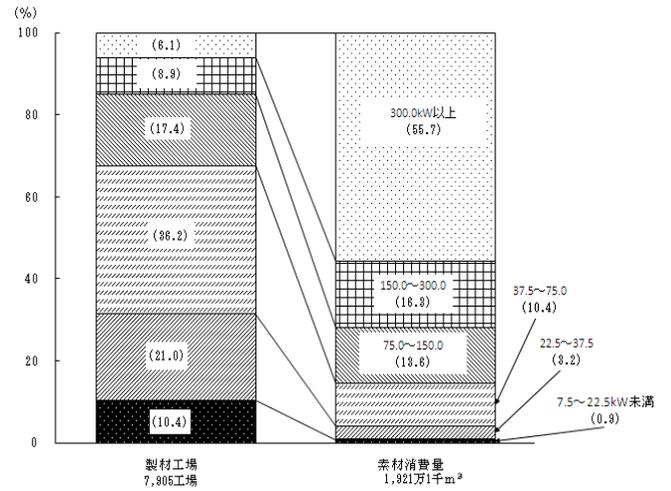
これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「150.0～300.0未満」、「75.0～150.0未満」及び「37.5～75.0未満」の階層においてそれぞれ38万5千m<sup>3</sup>（11.0%）、29万8千m<sup>3</sup>（10.2%）、26万m<sup>3</sup>（11.5%）減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,430m<sup>3</sup>で、前年に比べ36m<sup>3</sup>（1.5%）増加した。（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	平成19年	対前年比	構成比
	千m <sup>3</sup>	%	%
計	19 211	94.6	100.0
7.5 ～ 22.5kW 未 満	165	92.2	0.9
22.5 ～ 37.5	615	91.7	3.2
37.5 ～ 75.0	2 004	88.5	10.4
75.0 ～ 150.0	2 613	89.8	13.6
150.0 ～ 300.0	3 122	89.0	16.3
300.0kW 以 上	10 692	99.2	55.7
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup> 2 430	101.5	-

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成19年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成19年の製材用素材入荷量は1,944万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べ89万4千m<sup>3</sup>（4.4%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,198万1千m<sup>3</sup>で前年に比べ33万6千m<sup>3</sup>（2.9%）増加し、外材の入荷量は746万7千m<sup>3</sup>で前年に比べ123万m<sup>3</sup>（14.1%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は61.6%で、前年（57.2%）を4.4ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

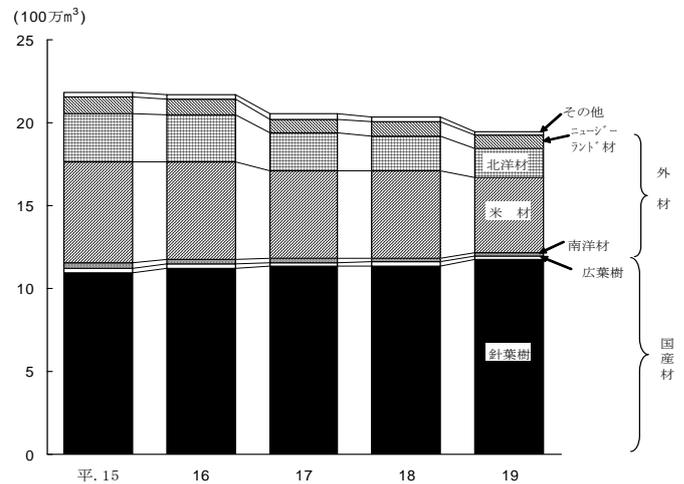


表8 材種別製材用素材の入荷量

区分	計	国産材				外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニューズランド材	その他
							ラワン材	ラワン材				
平成19年	19 448	11 981	11 782	199	7 467	162	20	4 562	1 715	809	219	
対前年比 (%)	95.6	102.9	104.1	60.9	85.9	81.0	71.4	87.0	81.1	93.0	81.7	
構成比 (%)	100.0	61.6	60.6	1.0	38.4	0.8	0.1	23.5	8.8	4.2	1.1	

単位：千m<sup>3</sup>

(イ) 素材の入荷があった製材工場は7,838工場で、前年に比べ595工場（7.1%）減少した。  
これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,723工場、国産材と外材は2,388工場、  
外材のみは727工場で、前年に比べそれぞれ174工場（3.6%）、282工場（10.6%）、139工場  
（16.1%）減少した。

入荷量でみると、国産材と外材は335万1千m<sup>3</sup>、外材のみは582万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べそ  
れぞれ62万2千m<sup>3</sup>（15.7%）、86万3千m<sup>3</sup>（12.9%）減少した。一方、国産材のみは1,027万  
5千m<sup>3</sup>で、前年に比べ59万1千m<sup>3</sup>（6.1%）増加した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約5割を  
占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成19年								
計	7 838	19 448	4 723	10 275	2 388	3 351	727	5 822
7.5～22.5kW未満	805	180	624	138	130	36	51	6
22.5 ～ 37.5	1 640	613	1 080	404	491	178	69	31
37.5 ～ 75.0	2 844	2 015	1 660	1 251	931	541	253	223
75.0 ～ 150.0	1 365	2 602	704	1 395	494	763	167	444
150.0 ～ 300.0	702	3 126	385	1 868	222	731	95	527
300.0kW以上	482	10 912	270	5 219	120	1 102	92	4 591
対前年比（%）								
計	92.9	95.6	96.4	106.1	89.4	84.3	83.9	87.1
7.5～22.5kW未満	93.9	98.9	97.3	97.2	79.3	105.9	98.1	100.0
22.5 ～ 37.5	91.4	90.5	92.5	95.7	91.9	82.8	74.2	77.5
37.5 ～ 75.0	91.8	88.7	95.9	100.0	86.6	73.1	86.6	79.6
75.0 ～ 150.0	93.9	90.2	99.0	98.7	93.0	88.5	78.8	72.7
150.0 ～ 300.0	93.5	88.8	100.3	100.6	87.7	74.9	83.3	76.7
300.0kW以上	100.6	101.0	102.7	113.5	106.2	96.2	89.3	90.7

注：工場数は、平成19年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は1,163万2千m<sup>3</sup>で、前  
年に比べ92万2千m<sup>3</sup>（7.3%）減少した。

出荷量を用途別にみると、主に「建築  
用材」、「木箱仕組板・こん包用材」及び  
「土木建設用材」の用途においてそれぞ  
れ75万2千m<sup>3</sup>（7.4%）、7万m<sup>3</sup>（5.0%）、  
4万7千m<sup>3</sup>（9.1%）減少した。

また、人工乾燥材出荷量は229万3千m<sup>3</sup>  
で、前年に比べ2万6千m<sup>3</sup>（1.1%）減  
少したものの、出荷量計における人工乾  
燥材出荷量の割合は19.7%と前年に比べ  
1.2ポイント上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

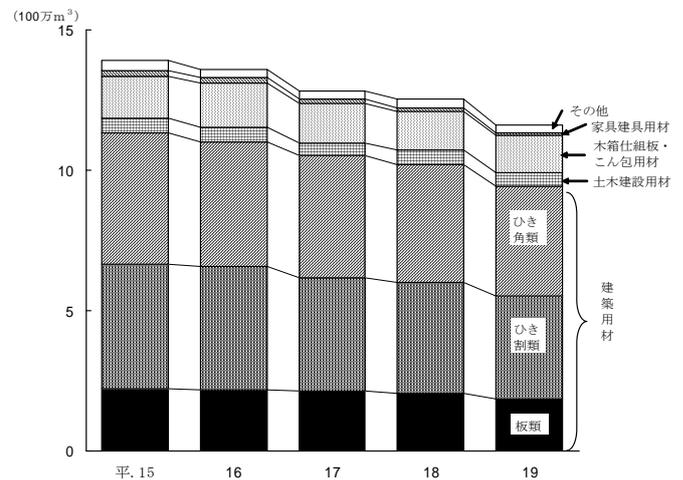


表10 用途別製材品出荷量

区分	計		建 築 用 材				土木建設 用 材	木箱仕組 板・こん 包 用 材	家具・ 建具用材	その他 用 材
	人工乾燥材	小 計	板 類	ひき割類	ひき角類					
平成19年	11 632	2 293	9 455	1 835	3 671	3 949	468	1 321	94	294
対前年比（%）	92.7	98.9	92.6	89.5	93.1	93.7	90.9	95.0	80.3	90.7
構成比（%）	100.0	19.7	81.3	15.8	31.6	33.9	4.0	11.4	0.8	2.5

単位：千m<sup>3</sup>

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成19年12月31日現在の合単板工場数は248工場で、前年に比べ15工場（5.7%）減少した。これは、特殊合板のみ製造している工場が172工場で、前年に比べ12工場（6.5%）減少したことによる。

合単板工場の従業者数は1万1,144人で前年に比べ270人（2.4%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は44.9人で、前年に比べ1.5人増加した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成19年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数							従業者数		1工場当たり 従業者数 人	
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数		対前年比
	実数	対前年比									
計	248	94.3	102	85	27	20	8	6 11 144	97.6	44.9	
単板のみ	23	100.0	7	13	1	1	1	-	636	88.2	27.7
普通合板のみ	43	95.6	3	13	9	14	3	1	5 587	99.4	105.4
普通合板と特殊合板	10	90.9	1	1	4	1	1	2			
特殊合板のみ	172	93.5	91	58	13	4	3	3	4 921	97.0	28.6

注：1) は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成19年の単板製造用素材の入荷量は522万7千m<sup>3</sup>で、前年に比べ4万4千m<sup>3</sup>（0.8%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は163万2千m<sup>3</sup>で、合板原料としての国産針葉樹の利用が増加したこと等から前年に比べ48万8千m<sup>3</sup>（42.7%）増加した。一方、外材は359万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べ44万4千m<sup>3</sup>（11.0%）減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は31.2%で、前年（22.1%）を9.1ポイント上回った。

（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

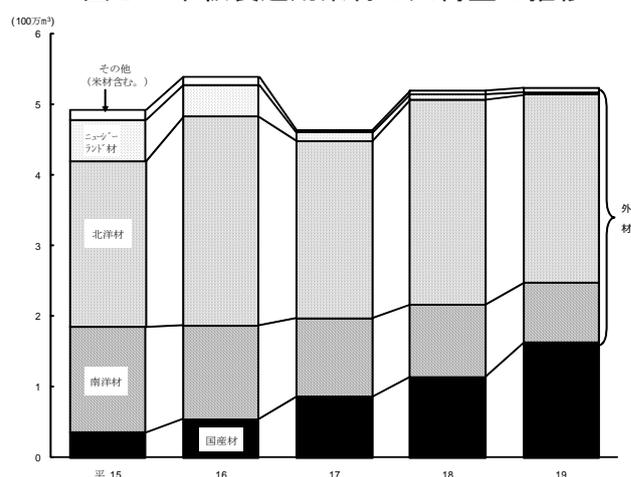


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューズランド材	その他
平成19年	5 227	1 632	1 619	13	3 595	2 699	846	748	48	2 655	35	11
対前年比 (%)	100.8	142.7	143.8	72.2	89.0	90.6	83.1	92.1	184.6	91.6	42.2	73.3
構成比 (%)	100.0	31.2	31.0	0.2	68.8	51.6	16.2	14.3	0.9	50.8	0.7	0.2

単位：千m<sup>3</sup>

ウ 普通合板生産量

平成19年の普通合板生産量は307万3千 $m^3$ で、前年に比べ24万1千 $m^3$ （7.3%）減少した。厚さ別にみると、主に「12mm以上」及び「6～12mm未満」の階層で前年に比べそれぞれ15万 $m^3$ （5.8%）、4万6千 $m^3$ （9.5%）減少した。

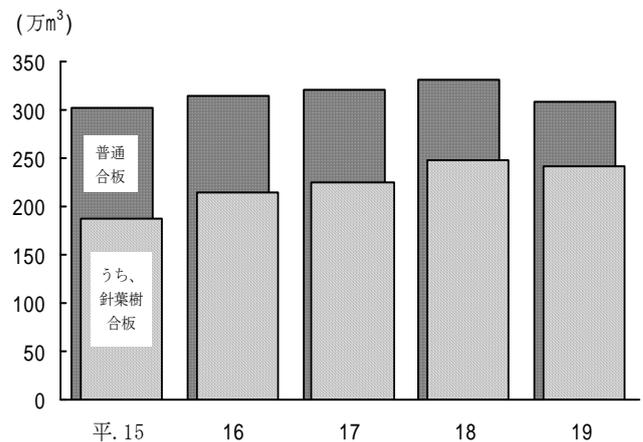
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は242万4千 $m^3$ で、前年に比べ6万 $m^3$ （2.4%）減少した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は78.9%で、前年（75.0%）を3.9ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	単位 { 生産量:千 $m^3$ 比 率:%		
	平成19年	対前年比	構成比
普通合板生産量	3 073	92.7	100.0
3 mm 未 満	54	77.1	1.8
3 ～ 6 mm	152	84.0	4.9
6 ～ 12 mm	440	90.5	14.3
12 mm 以 上	2 427	94.2	79.0
うち針葉樹合板	2 424	97.6	78.9

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

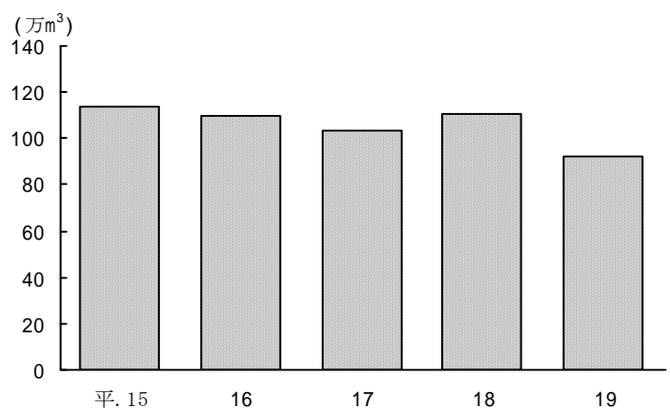
平成19年の特殊合板生産量は92万4千 $m^3$ で、前年に比べ17万8千 $m^3$ （16.2%）減少した。

これを種類別にみると、オーバーレイ合板は3万2千 $m^3$ 、プリント合板は13万1千 $m^3$ 、塗装合板は3万6千 $m^3$ 、天然木化粧合板は5万3千 $m^3$ 、その他の合板は67万2千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ減少した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	単位 { 生産量:千 $m^3$ 比 率:%		
	平成19年	対前年比	構成比
特殊合板生産量	924	83.8	100.0
オーバーレイ合板	32	69.6	3.5
プリント合板	131	83.4	14.2
塗装合板	36	61.0	3.9
天然木化粧合板	53	98.1	5.7
その他の合板	672	85.5	72.7
うち木質複合床板	467	86.2	50.5

図10 特殊合板生産量の推移



### (3) 木材チップ製造業

#### ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成19年12月31日現在の木材チップ工場数は1,857工場で、前年に比べ114工場（5.8%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、「木材チップ専門工場」は366工場で、前年に比べ2工場（0.5%）減少し、「製材又は合単板工場との兼営工場」は1,491工場で、前年に比べ112工場（7.0%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は3,426人で、前年に比べ193人（5.3%）減少した。

また、1工場当たりの従業者数は1.8人で、前年と同数となった。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数  
（平成19年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数 人
	計		4人以下 工場	5～9 工場	10～19 工場	20人以上 工場	実数 人	対前年比 %	
	実数 工場	対前年比 %							
計	1 857	94.2	1 653	157	38	9	3 426	94.7	1.8
木材チップ専門工場	366	99.5	202	122	33	9	...	...	...
製材又は合単板工場との兼営工場	1 491	93.0	1 451	35	5	-	...	...	...

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成19年の木材チップ用の素材入荷量は411万4千 $m^3$ で、前年に比べ19万8千 $m^3$ （5.1%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は403万7千 $m^3$ で、前年に比べ21万7千 $m^3$ （5.7%）増加し、一方、外材の入荷量は7万7千 $m^3$ で、前年に比べ1万9千 $m^3$ （19.8%）減少した。（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

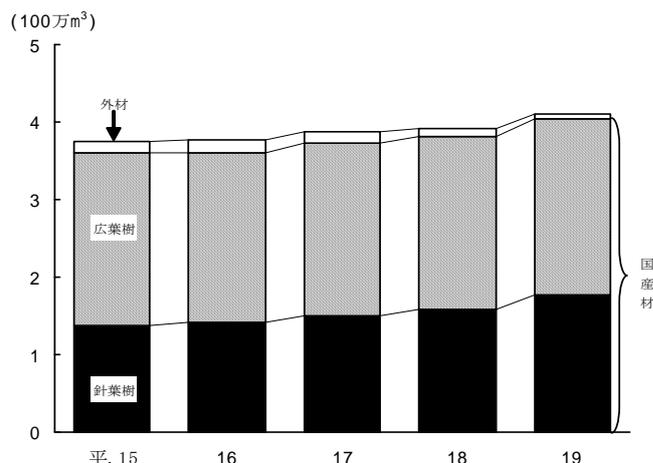


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

区分	計	国産材				外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニュージニアラント材	その他
							ラワン材	ラワン材				
平成19年	4 114	4 037	1 761	2 276	77	0	0	3	68	1	5	
対前年比 (%)	105.1	105.7	111.8	101.4	80.2	...	...	75.0	80.0	100.0	100.0	
構成比 (%)	100.0	98.1	42.8	55.3	1.9	0.0	0.0	0.1	1.7	0.0	0.1	

単位：千 $m^3$

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成19年の木材チップ生産量は589万4千tで、前年に比べ5千t（0.1%）減少した。

これを原材料別にみると、「素材（原木）」及び「林地残材」は前年に比べそれぞれ9万2千t（4.0%）、3万4千t（51.5%）増加したものの、「工場残材」及び「解体材・廃材」は前年に比べそれぞれ9万3千t（4.1%）、3万8千t（3.0%）減少した。

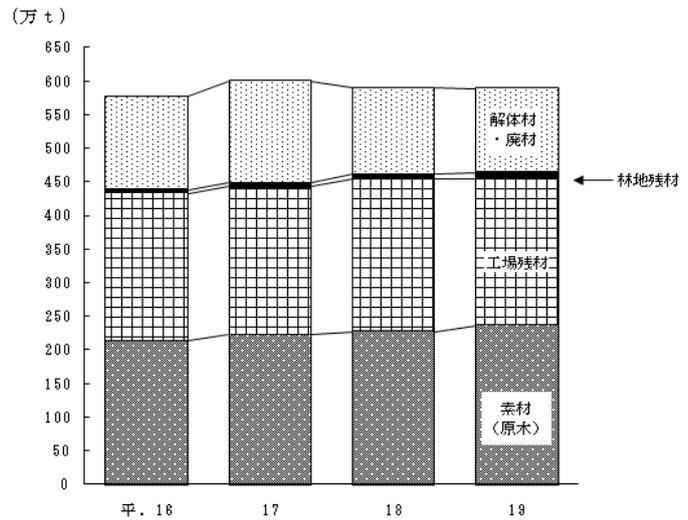
また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は308万7千tで、前年に比べ2.8%増加し、一方、「広葉樹」は156万3千tで、前年に比べ3.1%減少した。（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	単位 { 生産量:千t 比率:% (万t)		
	平成19年	対前年比	構成比
木材チップ生産量 (原材料別)	5 894	99.9	100.0
素材（原木）	2 368	104.0	40.2
工場残材	2 182	95.9	37.0
林地残材	100	151.5	1.7
解体材・廃材	1 244	97.0	21.1
(針葉樹・広葉樹別)			
針葉樹	3 087	102.8	-
広葉樹	1 563	96.9	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移



注：平成18年から木材チップ生産量の単位を変更したため、平成15年は表章していない。

### 3 木材価格の動向

#### (1) 素材価格（丸太価格）（表18、図13）

素材価格は、国産材は年の前半は安定した価格で推移したが、年の後半は、新設住宅着工数の減少により、低下傾向となった。外材は、年の前半は、米材の輸入量が少なくなったことや北洋材の輸出税値上げ前の駆け込み需要等により上昇傾向となったが、年の後半は、新設住宅着工数の減少により、低下傾向となった。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）は、低下傾向で推移し、年の途中持ち直したものの、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万5,200円となった。

イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半低下傾向で推移したものの、年の前半が安定して推移していたことから、年平均では1万3,300円で前年に比べ600円上昇した。

ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均では2万5,500円で前年に比べ1,000円低下した。

エ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上、No.3）は、年間をとおして上昇傾向で推移し、年平均では2万7,200円で前年に比べ3,100円上昇した。

オ 「北洋えぞまつ丸太」（径20.0～28.0cm、長3.8m上）は、年の後半低下傾向で推移したものの、年の前半が上昇傾向で推移していたことから、年平均では2万3,600円となった。

表18 素材価格

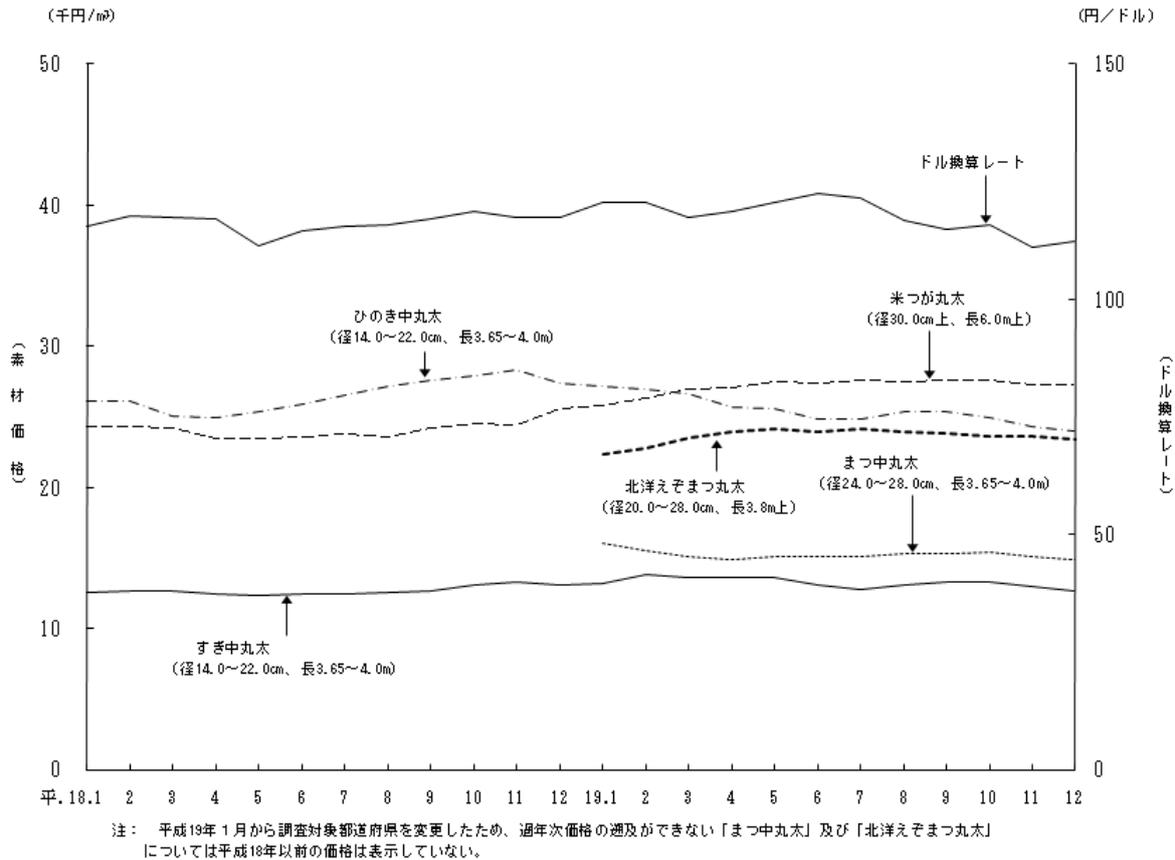
単位：1㎡当たり円

年次	まつ	すぎ	ひのき	米つが	北洋えぞまつ
	中丸太	中丸太	中丸太	丸太	丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 30.0 cm上 長 6.0 m上	径 20.0～28.0 cm 長 3.8 m上
	込 み	込 み	込 み	No.3	込 み
平均価格					
平. 17	...	12 400	25 200	23 500	...
18	...	12 700	26 500	24 100	...
19	15 200	13 300	25 500	27 200	23 600
対前年差					
平. 18	...	300	1 300	600	...
19	...	600	1 000	3 100	...

注：1 平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ中丸太」及び「北洋えぞまつ丸太」については平成18年以前の価格を「…」とした。

2 ※が付いた価格は、調査対象への消費税の取扱いの確認が困難なため、消費税を含む価格と含まない価格を集計した結果である（以下の統計表においても同様。）。

図13 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格（表19、図14）

木材製品卸売価格は、国産材製品は、年の前半は、新設住宅着工数の増加により上昇傾向で推移したが、年の後半は、新設住宅着工数の減少により、低下傾向となった。外材製品は、素材価格の上昇により上昇傾向で推移した。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

ア 製材品

- (ア) 「すぎ正角」（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m）は、年の後半は、低下傾向となったものの、年の前半が上昇傾向だったことから、年平均では4万2,900円で前年に比べ2,200円上昇した。
- (イ) 「ひのき正角」（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m）は、年の後半は、低下傾向となったものの、年の前半が上昇傾向だったことから、年平均では6万9,600円で前年に比べ5,200円上昇した。
- (ウ) 「米つが正角（防腐処理材）」（厚12.0cm、幅12.0cm、長4.0m）は、年の前半は上昇傾向で推移し、後半は安定して推移し、年平均では6万8,300円となった。
- (エ) 「北洋えぞまつ板」（厚1.2～1.5cm、幅15.0cm、長3.65～4.0m）は、年の前半は上昇傾向で推移し、後半は安定して推移し、年平均では6万1,100円で前年に比べ1万3,900円上昇した。

イ 合板

「針葉樹合板」（厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m）は、年の後半は、低下傾向となったものの、年の前半が上昇傾向だったことから、年平均では1,370円で前年に比べ300円上昇した。

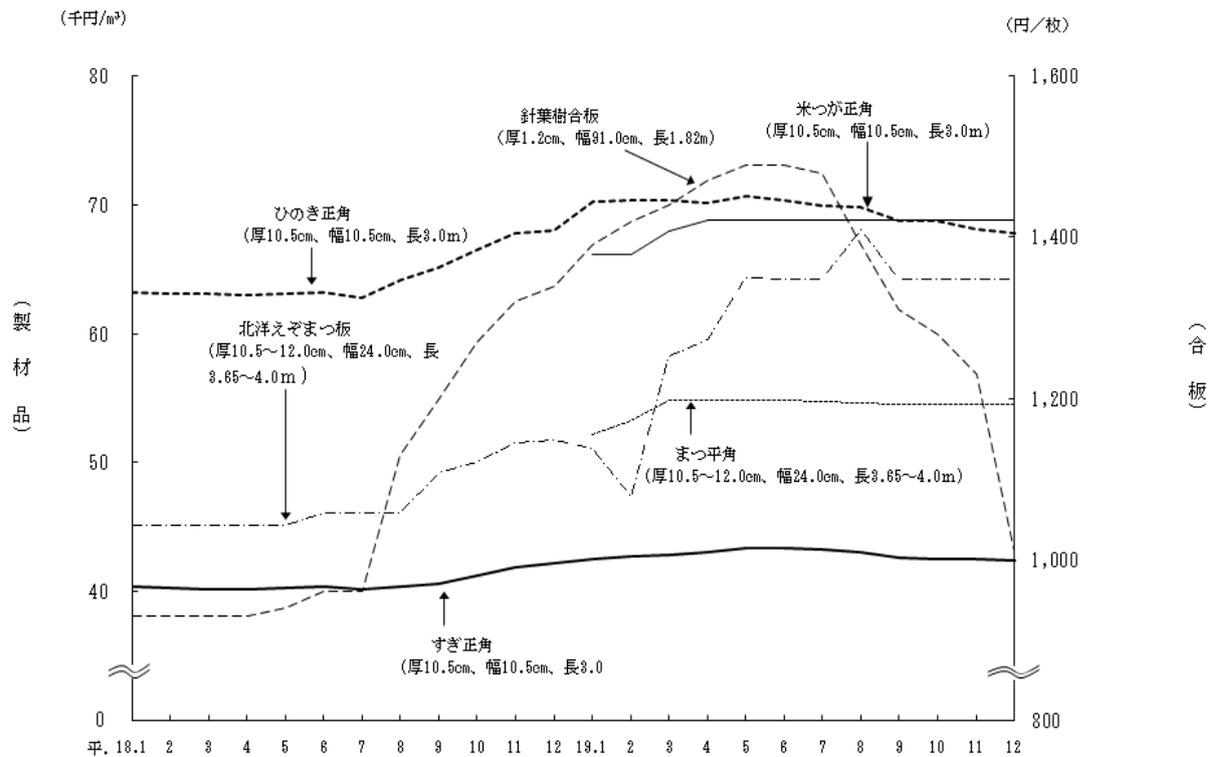
表19 木材製品卸売価格

単位：1 m<sup>3</sup>当たり円

年次	まつ平角	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角 (防腐処理材)	北洋えぞまつ板	針葉樹合板 (1枚当たり)
	厚 10.5~12.0 cm 幅 24.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 12.0 cm 幅 12.0 cm 長 4.0 m	厚 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 1.2 cm 幅 91.0 cm 長 1.82 m
	2 級	2 級	2 級	2 級	1 級	1 類
平均価格						
平. 17	...	40 700	66 300	...	45 000	960
18	...	40 700	64 400	...	47 200	1 070
19	54 300	42 900	69 600	68 300	61 100	1 370
対前年差						
平. 18	...	0	1 900	...	2 200	110
19	...	2 200	5 200	...	13 900	300

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ平角」及び「米つが正角（防腐処理材）」については平成18年以前の価格を「…」表記とした。

図14 木材製品卸売価格の推移



注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ正角」及び「北洋えぞまつ丸太」については平成18年以前の価格は表示していない。

### (3) 木材チップ価格

木材チップの価格は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では針葉樹は1万2,000円、広葉樹は1万5,400円となった。（表20、図15）

表20 木材チップ価格（パルプ向け）

単位：1t当たり円

年次	針葉樹	広葉樹
平均価格 平. 19	12 000	15 400

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができないことから、19年の価格のみを掲載した。

図15 木材チップ価格の推移

